

141-3000

# 取扱説明書

## ●調子よく縫えない原因

### ■ミシンが動かない場合

- ・ストップモーションがゆるんでいる場合
- ・釜の内側に糸がからみついている場合 (P.15ミシンの手入れを参照に)

### ■布地が送らないのは

- ・送り歯が下っている時(送りダイヤルが(●)の位置になっている場合)
- ・ストップモーションがゆるんでいる場合
- ・送り調節ダイヤルが“0”になっている場合

### ■針が折れるのは

- ・針を逆にはめたり、又は曲っている場合
- ・布地を不当に引張った場合
- ・針、糸、布地との関係が悪い場合(針、糸、布地の関係表(P8)を参照してください)

### ■上糸が切れるのは

- ・釜の内側に糸がからみついている場合
- ・糸の掛け方が間違っている場合
- ・針穴が不良である場合
- ・針穴より太い糸を使用した場合
- ・糸の調子を強く締めすぎた場合
- ・糸が必要以外のところへからみついている場合
- ・中釜にキズがついている場合

### ■下糸が切れるのは

- ・釜の内側に糸がからみついている場合
- ・ボビンケースの調子バネを強く締めすぎた場合
- ・ボビンケースに糸の通し方が間違っている場合

### ■目飛びがするの

- ・針を逆にはめたり、又は曲っている場合
- ・針を完全に入れていない場合
- ・粗悪な針を使用した場合
- ・糸の掛け方が間違っている場合
- ・糸屑が針板の下部に附着している場合
- ・針、糸、布地との関係が悪い場合

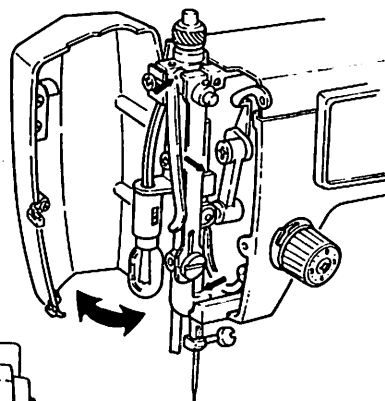
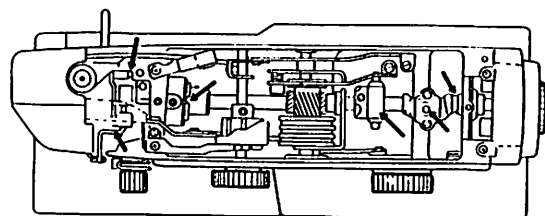
### ■縫い目に輪ができるのは

- ・上糸、下糸の調子が完全でない場合

### ■縫い物にシワがよるのは

- ・糸調子が強すぎる場合
- ・糸の掛け方が間違ったり、又はどこか余分な箇所糸が引掛かっている場合
- ・下糸がボビンに平均的に巻かれていない場合

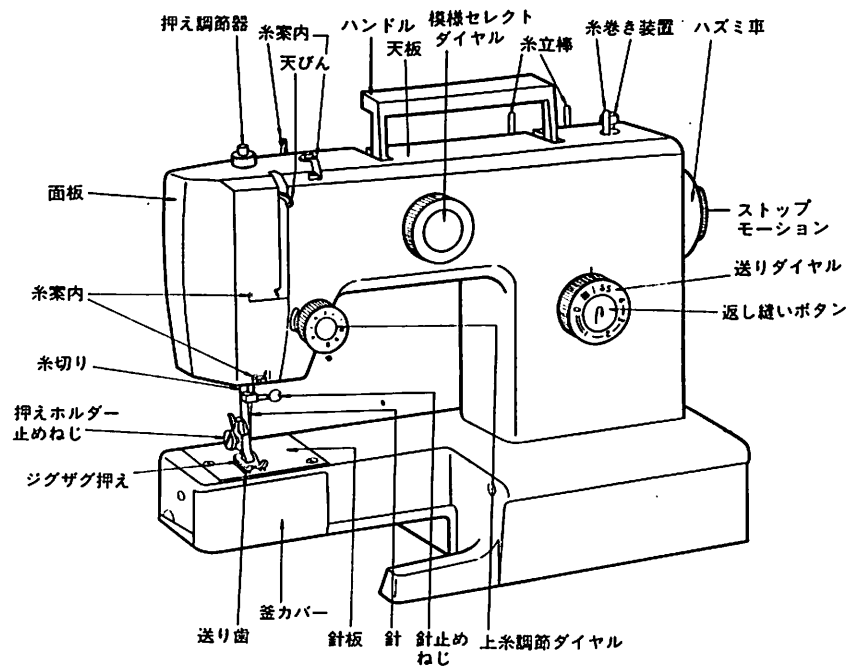
### ■注油の箇所(●印のところに差して下さい)



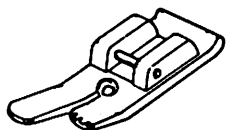
## 目次

部品の名称.....	2	直線縫いのセット.....	9
附属品の内容.....	2	ジグザグ縫いのセット.....	10
モーターの始動方法.....	3	縫い方向のかえ方.....	10
補助板の取りつけ方.....	3	縫いおわり.....	10
針の取りつけ方.....	4	各ダイヤルの説明.....	11
各種押えの取りかえ方.....	5	ボタン穴かがりのセット.....	12
ボビンケースの取り出し、取りつけ方.....	6	ファスナーつけのセット.....	13
下糸の巻き方.....	6	裁ち目かがり(緑かがり).....	13
ボビンケースに下糸の通し方.....	7	ストレッチステッチ(三重縫い)のセット.....	14
押え調節器(ダーナー)の調節.....	7	刺しゅう縫いのセット.....	14
上糸のかけ方.....	8	ミシンの手入れ.....	15
上糸調子のとり方.....	8	調子よく縫えない原因.....	16
下糸の引き上げ方.....	9	注油の箇所.....	16
織物と布地・糸・針の関係.....	9		

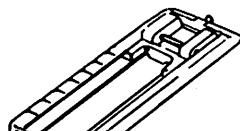
## ● 部品の名称



## ● 付属品の内容



直線縫い押え



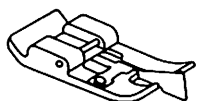
ボタンホール押え



シームリッパー



油さし



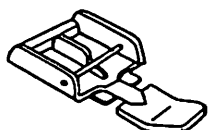
縁かがり押え



フェルト



ボビン



ファスナーつけ押え



ドライバー大 ドライバー小

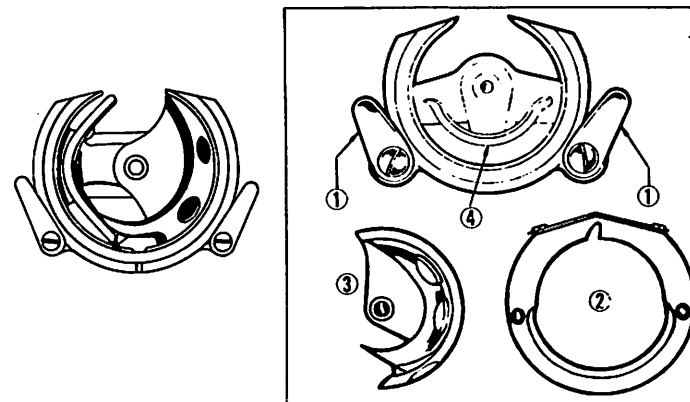


針

## ● ミシンの手入れ

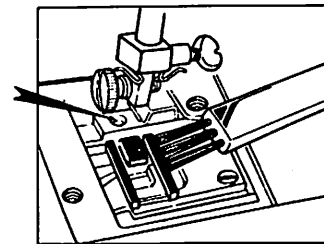
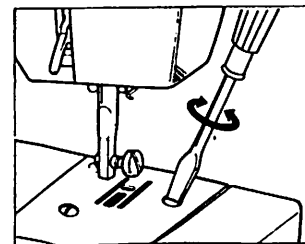
### ■ カマの掃除と扱い方

- ・針を最上部に上げます。
  - ・釜カバーを開けて、ボビンケースを取り出します。
  - ・釜のふた押え①を両側に開き、ふた②を外して、中釜③を取り出します。
  - ・釜の内側及びドライバー④の汚れを取り、きれいな布にミシン油をつけてよく拭きます。
- ※掃除が終わったら反対の順序で取りつけて下さい。

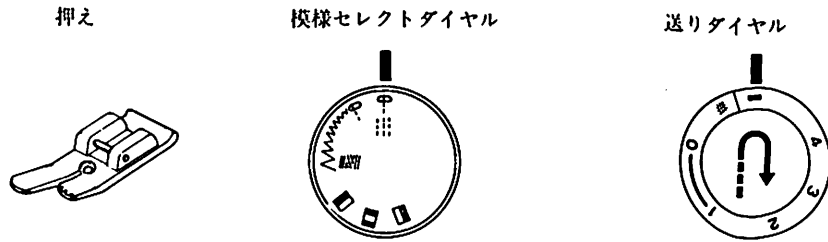


### ■ 送り機構の手入れ

- ・針板と送り歯の間に糸くずやほこりが溜りますと、いろいろな故障の原因となりますので、常に清潔にして下さい。
- ・針を最上部に上げて、針を抜き取ります。
- ・押えを取り外します。
- ・針板も取りはずします。
- ・送り歯の裏側のゴミをきれいに取り除きます。
- ・ハズミ車をゆっくり回して掃除がゆきとどいているか確かめてから反対の順序で部品を元の通りに取り付けて下さい。

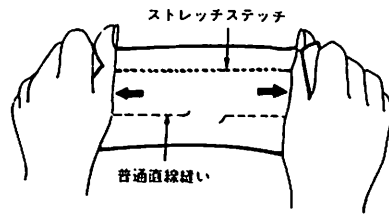


## ●ストレッチステッチ(三重縫い)のセット

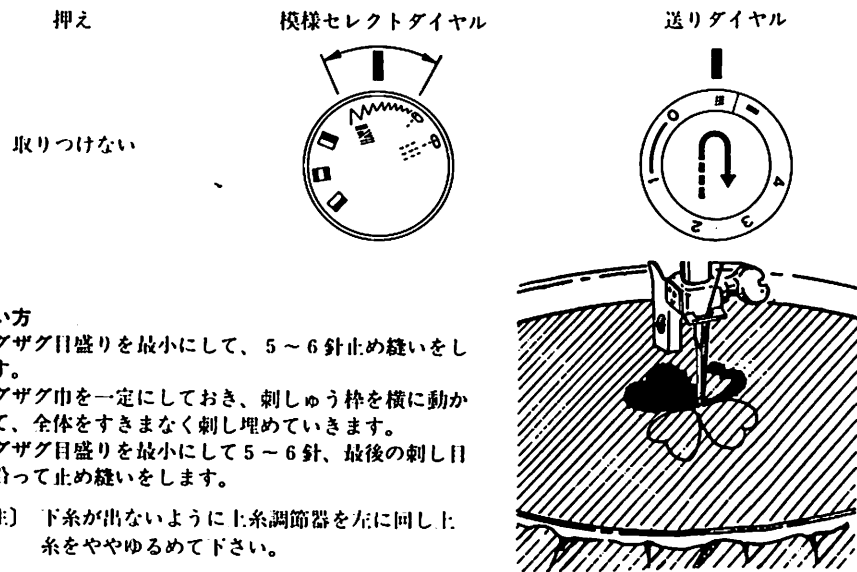


### ■縫い方

- 上のように各ダイヤルをセットしてください。
- ※伸縮性のあるジャージやトリコットを縫うとき、三重縫いをすると、布が伸びても糸切れすることなく、布地にぴったりの伸縮性をもたせることができます。
- ・ゴムテープの縫いつけにもご利用下さい。
- ※ニット等はうすい紙を布の下にひくと更にきれいに縫い上ります。



## ●刺しゅう縫いのセット

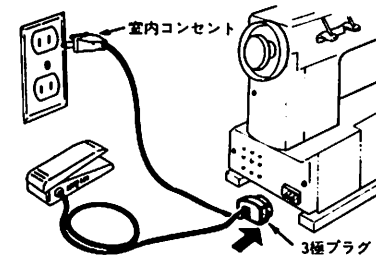


### ■縫い方

- ・ジグザグ目盛りを最小にして、5～6針止め縫いをします。
- ・ジグザグ巾を一定にしておき、刺しゅう枠を横に動かして、全体をすきまなく刺し埋めていきます。
- ・ジグザグ目盛りを最小にして5～6針、最後の刺し目に沿って止め縫いをします。

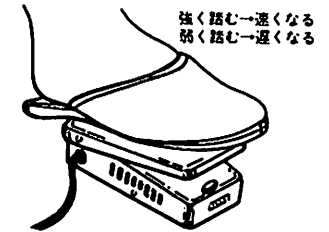
〔注〕 下糸が出ないように上糸調節器を左に回し上糸をややゆるめて下さい。

## ●モーターの始動方法



### ■電源コードの結線

- ・ミシンに取りつけられたモーターソケットへコントローラーから接続された3極プラグを差し込みます。
- ・他方は室内コンセントに差し込みます。

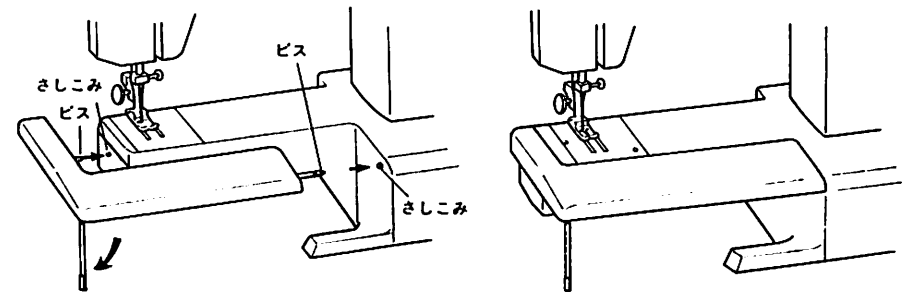


### ■コントローラーの踏み方

- ・しずかに足をかけ、縫いはじめはハズミ車を手前にまわしながらゆっくりと踏みましょう。
- ・コントローラーは踏みかげんで好みの速さに調節できます。
- ※きれいに縫うためには、一定の速さで踏むことが大切です。

〔注〕 ミシンの使用中は、モーター及びコントローラーなどは、子供に直接手を触れさせないようにして下さい。又、ミシンを使用しない時は、電源コードを必ず室内コンセントから外して下さい。

## ●補助板の取り付け方



### ■補助板の取り付け

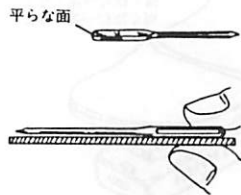
- ・補助板は、さしこみとビスを合わせるだけで簡単に取り付けられます。

### ■補助板をつけると普通のミシンに変身

- ・カーテン、テーブル掛けなど巾広い布地の場合は補助板をつけると、普通ミシンと全く変らぬ威力を発揮します。

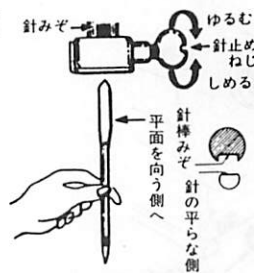
## ● 針の取り付け方

1



- ・ 曲った針では、きれいに布地が縫えません。
- ・ 針の曲りを調べるには、平らな物の上のせ、針の平らな面を当て明るいところですかして見ます。
- ・ 針の下側のスキマが平均に見えるのが良品です。

2



- ・ はずみ車を手前に回して針棒を最上部に上げる。
- ・ 針止めねじをゆるめる。
- ・ 針の平らな面を針棒の針みぞの方へ向けて深く上に突きあたるまで差し込む。
- ・ 針止めねじをしめる。

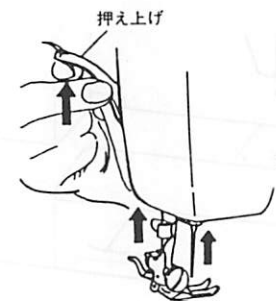
3



- ・ 針を取り付けた場合は必ず、正しく取り付けられたかを調べてください。
- ・ はずみ車を手前にゆっくり回し、針先が針穴の中心に落ちれば、正しい状態です。
- ※この時、模様セレクトダイヤルを直線縫いの状態にセットしてから針落ちをしらべて下さい。

## ● 名種押えの取りかえ方

1



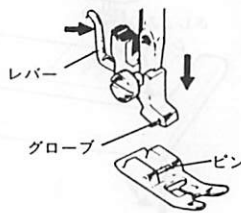
- ・ 針を最上部に上げ押え上げにより、押えを上げる。

2



- 取りはずし
- ・ 押えホルダーのレバーを手前に押すと、押えが簡単に外れます。
- ※押えホルダーの止めねじは、外さなくても押えは外れます。

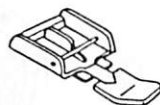
3



- 取りかえ
- ・ ご使用になる押えを、押えホルダーのちょうどま下にくるように置く、
- ・ しずかに押え上げをさげますとセットされます。
- ※どの押えも、この要領で簡単に取り外し、又セット出来ます。

## ● ファスナーつけのセット

押え



模様セレクトダイヤル



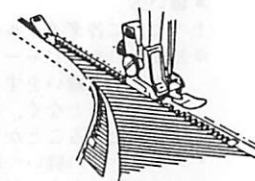
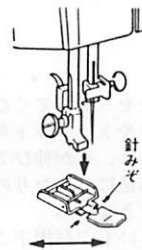
送りダイヤル



ダイヤル目盛1~3の  
適当な位置に合わせる。

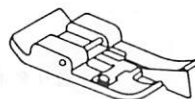
### ■ 縫い方

- 押えは常に布地だけを押しファスナー金具を押しえないような位置へ合わせてください。押し側がファスナー金具に対して定規になるように合わせますとファスナーから針落ちまでのすきまがそり美しく縫い上ります。
- ・ ファスナーを左右縫い合わせる時、左右のみぞに針をおとすように押えの位置をかえて下さい。



## ● 裁ち目かがり(縁かがり)

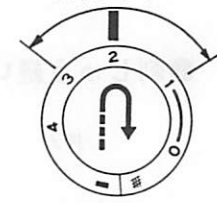
押え



模様セレクトダイヤル



送りダイヤル



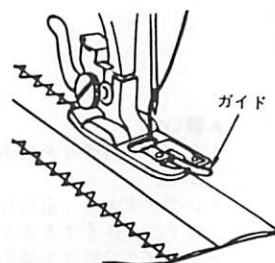
ダイヤル目盛1~3の  
適当な位置に合わせる。

### ■ 縫い方

- ズボン、スカートなどの縫いしろのほつれを防ぐ縫いかたです。
- ・ 裏地をつけない肩、股上、股下、袖下などにも利用できます。
- ・ 縁かがり押えのガイドに布はしをびったりあてて、縫いますと縫いちみがなく、まっすぐきれいに縫えます。
- ・ 薄い布地の場合は布はしを2つ折りにするときれいに縫えます。
- ・ 糸調子はゆるめに、上糸と下糸が布地のはしで交差するように調節してください。
- ・ ミシンスピードはゆっくり縫ってください。

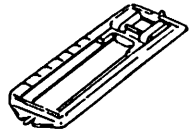
### 〈注意〉

- ・ 縁かがり押えを使うときは模様セレクトダイヤルは必ず $\approx$ で縫ってください。 $\approx$ 以外で縫いますと針が押えにあたり危険です。



## ● ボタン穴かがりのセット

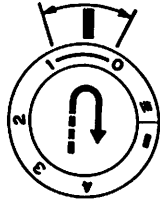
押え



模様セレクトダイヤル



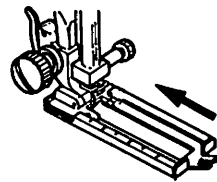
送りダイヤル



### ■ 縫い方

- ・上のよう各部をセットした後、押えを後へいっぱい押し出してから次の図にしたがってお縫い下さい。
- ・縫い終わったら、リッパーでボタン穴を切り開きます。
- ・縫い目の長さは1の方へ近かざけると荒らくなり、0に近かざけると細かくなります。

縫いはじめ



押えを矢印の方向に押す。

縫いおわり



リッパーでボタン穴を切り開く

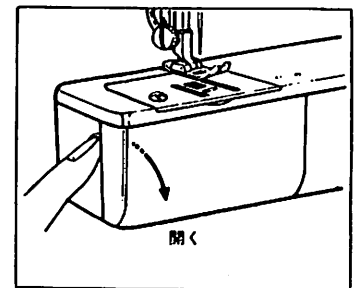
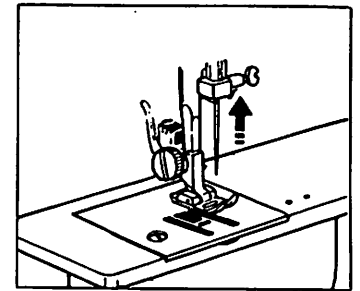
## ● ボタン穴かがりの順序

	1	2	3	4
ダイヤルのセット順				
	模様に合わせて	右に回して模様に合わせて	右に回して模様に合わせて	ふたたび左にもどし模様に合わせて
縫いの順位				
説明	右側から矢印の方向へ任意の長さまで縫う	右左に4～5針縫う	矢印の方向へスタートの位置まで縫う	右左に4～5針縫い止める。直線で1～2針止め縫いして下さい。

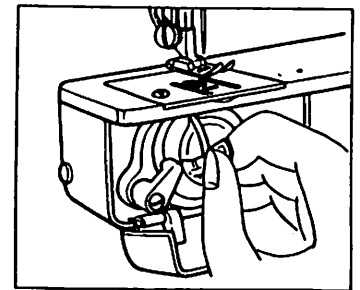
## ● ホピンケースの取り出し、取り付け方

### ■ 取り出し

- ・針を最上部に上げます。
- ※針を上げないとホピンケースはとりだせません。
- ・釜カバーを手前に開いてから、ホピンケースのつまみをいっぱいおこして、とり出します。
- ・ホピンケースからホピンを出すときはつまみを閉じて、ホピンを下向きにすれば、ホピンがとり出せます。

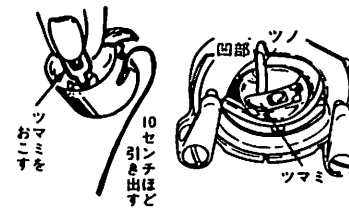


開く



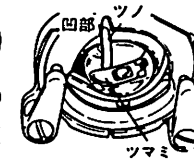
### ■ 取り付け

- ・ホピンケースのつまみをいっぱいおこせば、ホピンはおちません。
- ・ホピンケースから糸はしを10cmほど手前に引き出しておきます。
- ・針を最上部に上げてから、ホピンケースのつまみをもって中ガマに入れ、カマの凹部へホピンケースのツノがキチンとはまるまでいっぱいさしこみます。



つまみを  
おこす

10センチほど  
引き出す



凹部

ツノ

つまみ

## ●下糸の巻き方

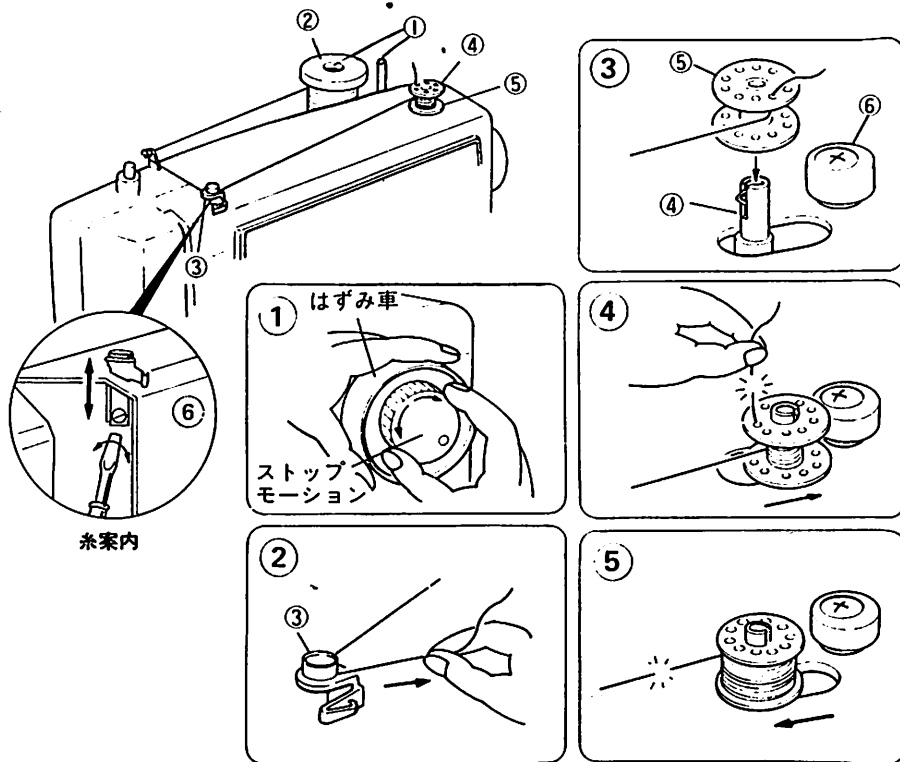
### ■はずみ車をゆるめる

・ホビンに下糸を巻く場合は、はずみ車を左手で押え、右手でストップモーションを矢印方向に回しますと、針の運動とは関係なくはずみ車だけ、から回りするようになります。

### ■下糸をまく

・糸立棒①に糸ごま②をさし、天板糸案内③に図のように通してから、糸の先をホビンに7~8回巻きつけて糸巻軸④にさし込み、そしてはめこんだホビン⑤を右に押し、ホビン押え⑥に押しつけます。ミシンをゆっくり運転しながら巻きはじめ、ホビンに糸が充分巻かれますとホビンの回転は自動的に停止します。巻き終わりましたら、ハズミ車をおさえ、ストップモーションねじを回してきつくしめます。

(仕事の途中でストップモーションをゆるめればミシンが回転しませんからホビンに糸を巻くことができます。)



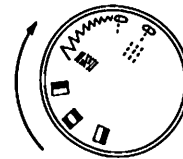
### ■下糸(ホビン)が平らに巻けないときは

・糸案内止めネジをゆるめ、糸案内を上または下へ動かします。(6参照)



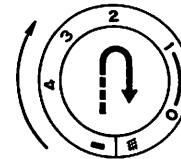
## ●各ダイヤルの説明

### 模様セレクトダイヤル



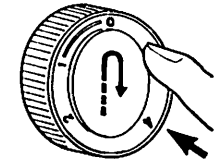
・必ず針棒を最上部に上げてから、模様セレクトダイヤルを回して、ご使用の模様に合わせて下さい。

### 送りダイヤル



・ダイヤルを矢印の方向に回すと数字が大きくなり、縫い目の長さが大きくなります。  
・"0"の位置では布は送られません。

### バック縫いボタン



・返し縫い、止め縫いのときに使います。  
・ボタンを止まるまでいっばいに押し、押ししている間だけ返し縫いができます。

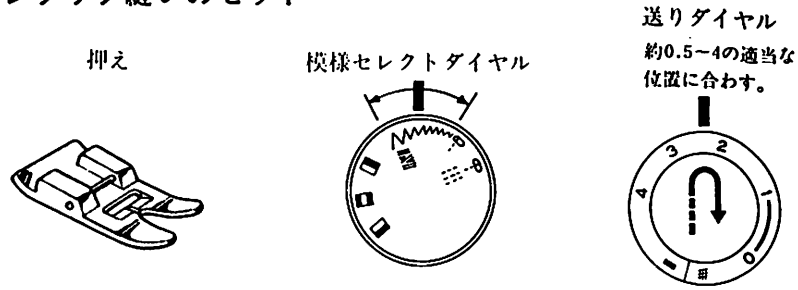
### ■表1 模様セレクトダイヤルの外側の模様が出ます。

	直線縫い (中基線) 直線縫い (左基線) ジグザグ縫い	送りダイヤル 約0.5~1 
	ボタンホール縫い	
送りダイヤルの数字が大きくなると、縫い目の長さが大きくなります。		

### ■表2 模様セレクトダイヤルの内側の模様が出ます。

	伸縮縫い ジグザグ縫い	送りダイヤル 
--	----------------	------------

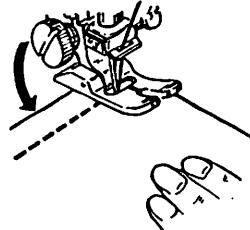
## ●ジグザグ縫いのセット



### ●手動模様縫いの一例

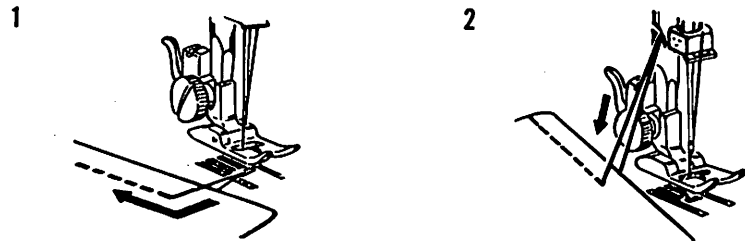
模様	送りの長さ	模様セレクトダイヤル
	長い 短い	適当な巾に合せる
	長い 短い	左からゆっくり右へ回し左へもどす
	長と短くり返す	適当な巾に合せる

## ●縫い方向のかえ方



- ・まがる角で運転を止め、針を布に深くさしたままで押えを上げる。
- ・針を中心に布をまわしふたたび押えをおろして縫い始める

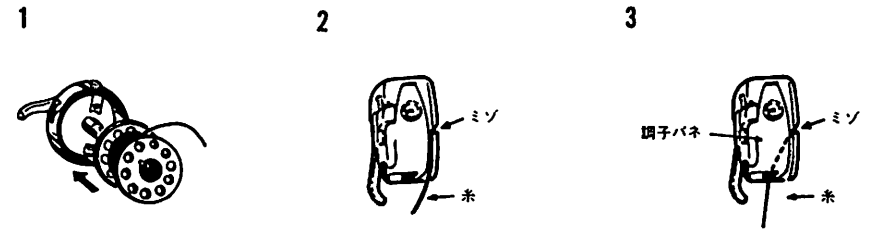
## ●縫いおわり



- ・針が最上部に上ったとき運転を止める。
- ・押えを上げて縫い物をしずかに左方向へ引き出します。

- ・押え棒の糸切りに上下2本の糸を同時にかける。
- ・両手で糸を下の方へ引くと糸が切れま

## ●ホビンケースに下糸の通し方



- ・糸を10cmほど出し、糸の方向を図のようにして、ホビンケースの中軸にはめ込む。

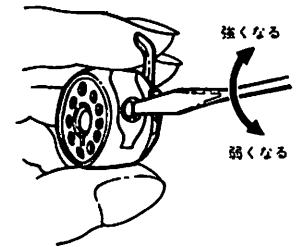
- ・糸の端をホビンケースの糸道に入れる。

- ・糸道を通して、調子バネの下をくぐらす。

4

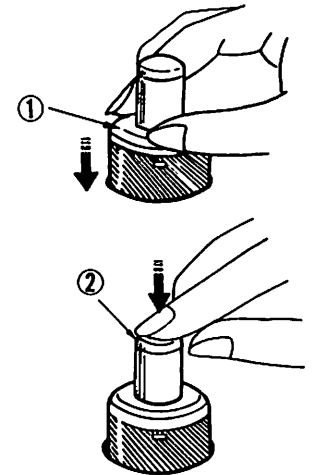
### ■下糸の調節

- ・下糸がスルスル出たり、重すぎて糸が切れたりしないように、てきとうな重みに調節します。
- ・小型ドライバーで、ホビンケースの調節ネジを図の方向に回して調子バネの強さを加減して下さい。



## ●押え調節器(ダーナー)の調節

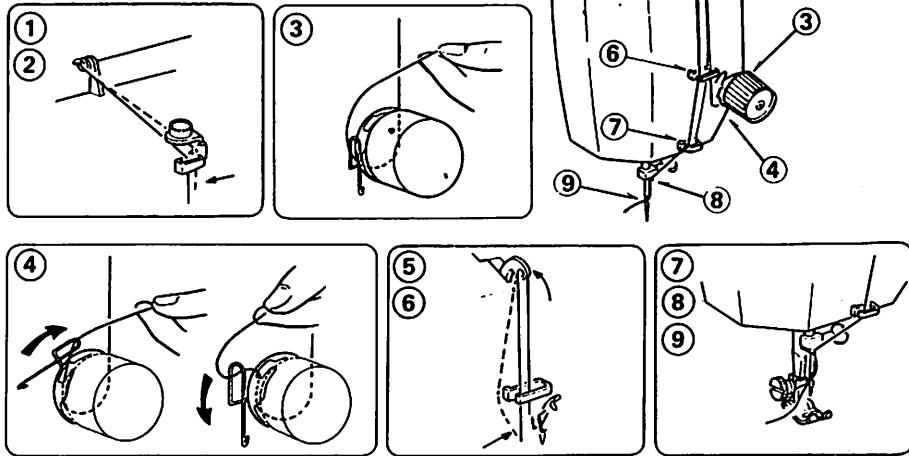
- ・押えの圧力は、ダーナーキャップ①とダーナー内筒②で調節します。
- ・ダーナー内筒とダーナーキャップはバネ装置になっておりますから、強弱はきわめて簡単に操作できます。
- ・ダーナー内筒を上から押すと押えは強くなり、ダーナーキャップを押すと内筒ははね上り押えは弱くなります。
- ・普通の布地の場合には、ダーナー内筒を約1/2押し込んだ程度でお縫いください。



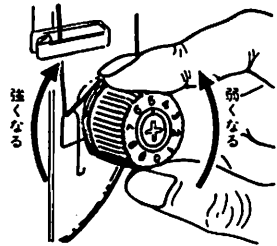


## ●上糸のかけ方

- ・天ピンを最上部に上げる
- ・天板糸案内に糸を通します①②
- ・糸調子ダイヤル皿の間に右からかけて、糸取りバネに図のようにかけます。③④
- ・天ピンから糸案内に通します。⑤⑥⑦⑧
- ・針穴へ手前から向う側に通し、押えの下から15cmほど引きだしてください。⑨



## ●上糸調子のとり方



- ・上糸調子器を右に回すと、糸の張力が強くなる。
- ・左に回すと糸の張力が弱くなる。

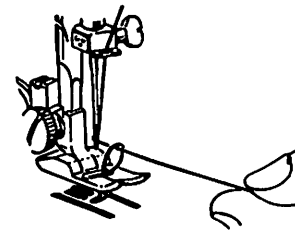
※0～9までの数字は大きくなるほど糸の張力が強くなることをあらわしますが、普通5以下でお使い下さい。

2

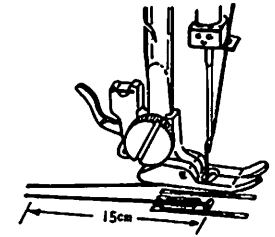


- ・直線縫いの場合は糸調子は、布地の中央で上糸と下糸が交さしているのがよい糸調子です。
- ・ジグザグ縫いの場合の糸調子は布地の裏側で上糸と下糸が交さるようにします。したがって直線縫いのときよりも少し上糸をゆるくしてください。

## ●下糸の引き上げ方



- ・押え上げを上げる
- ・上糸の端をもち、ハズミ車を手前に1回転させ、再び天ピンが最上部へきたら、上糸を引くと針穴から下糸が輪になってあがってきます。



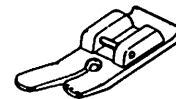
- ・上糸と下糸をそろえて、押えの下をくぐらせ向う側へ15cmほど出しておきます。
- ※糸は必ず向う側におかないと、糸がからみます。

## ●織物と布地・糸・針の関係

	布地の種類	ミシン糸	ミシン針
極薄地	ベンベルグ及びデシン、絹、サラン、ジョーゼット、ボイル、オーガンジー、ローン、ナイロン、レース等	極細刺しゅう糸 100番～120番カタン糸 50番～80番羽二重糸 100番ナイロン糸	9番
薄地	ブロード、ギンガム、綿混紡、タフタ、綿レース、薄ウール、サテン、ポプリン等	80番～100番カタン糸 50番羽二重糸	11番～14番
普通地	ジャージ、ウール混紡、化繊、ベルベッテン、ジャガード、木綿、カシミア、純毛織物等	50番～80番カタン糸 40番～50番羽二重糸	14番
厚地	オーバー地、コールテン、フェルト、スウェードデニム、帆布、交織厚地等	30番～50番カタン糸 30番～40番羽二重糸	14番～16番

## ●直線縫いのセット

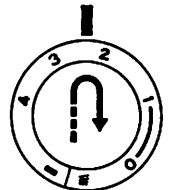
直線縫い用押え



模様セレクトダイヤル



送りダイヤル  
約0.5～4の適当な位置に合わせ。



※直線縫いを長時間されるときには、アタッチメントの直線縫い押えをお使いになった方がよりきれいに縫い上がります。

(各種押えのとりかえ方=P-3の項参照)

(注)直線縫い用アタッチメントに交換される場合は、模様セレクトダイヤルが上の図のようにセットされているか、たしかめてから行って下さい。